

内海歴史民俗資料館のボランティアの方々にお世話をした経験を話し、協力を願いました。

「高原水車友の会」準備会開催

昨年十一月三十日（土）、高松市六条町に残っている水車の保存を考える会の発足に向けて、準備会が開かれました。近所の方、物作りに興味がある方、建築家、讃岐うどん関係の方、教師、新聞記者、知人友人の方々三十名余が水車場に集まりそれぞれの感想と夢を話し合いました。あたたかい晴天に恵まれ、水車場見学もおこないました。

司会の川崎正視氏（元高松市教育委員会教育部次長）が友人の一人として静かに水車の現状と保存の意味を述べて会が始まりました。続いて高原水車後継者の平田恵美・堀家みどりが、残された水車と水車場を保存するかどうか、これまで数年間専門家の方や瀬戸内海歴史民俗資料館のボランティアの方々にお世話をした経験を話し、協力を願いました。



その後、田井さんの説明で水車場を見学しましたが、近所の方は、子ども時代以来、久しぶりの水車との対面で、あらためて感慨深い思いをされたようです。

最後に、集まつた一人が感想を述べました。

「価値があることはわかつた。しかし課題は大きい」「こんなものがまだ残っていることに感激しました」「ものつくりの面で協力したい」「難しいけれど一歩一歩進めて、夢を語れるようにしたい」など楽しく自己紹介をしました。そして、「意外に近所でも知らない方が多いので、まず知らせましょう。修理が出来る前からさまざまな形で、子ども達にも見せたいものだ」という話に落ち着き、作業分野ごとに担当委員さんを決め、話し合いながら緩やかに進めて行くこと、修理についても行政の方と相談しながらやっていくことなどを確認し、四月を目途に「高原水車友の会」を発会することが司会の川崎氏から提案され、散会しました。

（平田記）

高原水車友の会
高松市六条町
高原水車

高原水車

友の会通信 No.1（準備号）

その後、田井さんの説明で水車場を見学しましたが、近所の方は、子ども時代以来、久しぶりの水車との対面で、あらためて感慨深い思いをされたようです。



「高原水車の文化的価値について」

田井 静明氏記念講演メモより

高原水車場の特長

- 百年以上の稼働の歴史を持つ
- 歴史性・希少性

- 水車器械、機械、水路等すべてが比較的保存状態良く残る

- ①瀬戸内・香川の技術的特徴

- ②穀物加工器械・機械類の変遷を一望

- ③地元石材で構築、水車創設時のまま

残る

■讃岐の特徴的な地理環境である溜池水

源、水利の中で運営

水に苦労した香川の水環境を反映

■水車経営に付随する、うどん・素麺製麺、

七面鳥飼育売買、養鶏・畜産などの資料

が残る

水車関連副業資料が残る

- 水車経営、農業経営、水利関係の史料、道具が数多く伝わる

広範な史資料が伝来

- 讃岐の水車大工の系譜や技術の中にも位置付けられる

- 明白な水車製作者の系譜・技術

四国及び岡山の製粉精米水車

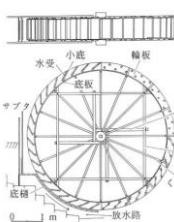
高原水車の希少・貴重性



昭和63年頃の水車場外観



現在の水車場（東方から見る）



◆江戸時代、旧古川の地形を利用して石垣の水路を造り、水車経営が始まりました。明治35年、当時25才の高原太吉が譲り受け、製粉、精米、精麦、製麺などの事業を懸命に続けました。水車は水の管理と石臼、歯車、水路などのメンテナンスが絶えず必要です。水車を動力源とした古い製粉機構には先人の知恵が詰まっているようです。ふたたび水車がザーザーと水音を立てて回る姿に現代の私たちや子供達は何を感じるでしょうか。（水車友の会発起人）

「高原水車友の会」通信 第1号（準備号）
発行 高原水車友の会準備会
平成二十六年二月一日

【題字 森佐知子】
カット 平田真咲

